

○事業名：アニメ脚本と脚本家のデータベース構築

○団体名：一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

○事業概要

1. アニメ脚本等の現物に関する事業——アニメ脚本資料の散逸防止の必要性

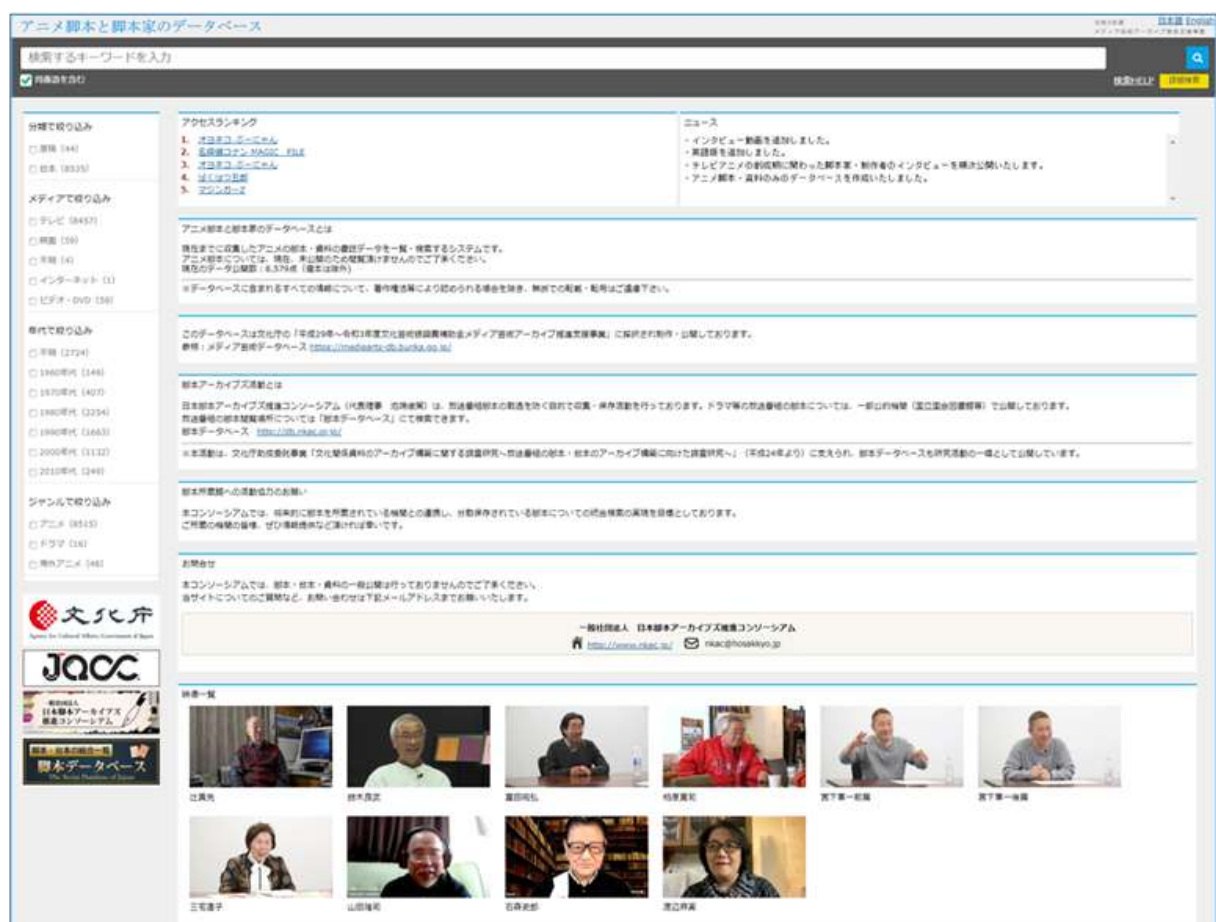
日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムでは、平成 17(2005) 年から放送番組の脚本を中心に収集し、脚本のデータベース作成を実施している。収集した脚本資料にはアニメーション（以下アニメとする）関連資料が約 5%含まれている。アニメ脚本に関してはメディア芸術分野の資料と共に保管およびデータベース化される可能性を考え、平成 29(2017) 年度より本事業を企画し「アニメ脚本と脚本家のデータベース構築」をおこなっている。

脚本はアニメ制作の設計図となる貴重な資料であるが、長期保存を予定していないため紙質が悪く、ガリ版印刷のものも含まれ、インクの退化など劣化が激しい。出版物ではない脚本は、発行部数は少なくスタッフや制作会社を中心に保存されるのみで、転居などにより散逸消失する危険が大きい。現物収集およびデジタル化作業は必要かつ緊急性を有する。

現在までに収集したアニメ脚本・資料は 9,680 件（コピー台本、ポスター、絵コンテ含む）。作品数は約 570 タイトルに及ぶ。

本事業では、収集した資料の書誌情報を「アニメ脚本と脚本家データベース」として Web で公開している。<http://animedb.nkac.or.jp/> 令和 3(2021) 年度、モバイル版の公開も行なった。

【TOP ページ】



2. アニメ脚本資料の劣化・消滅防止に関する事業——デジタルと証言保存の必要性

① デジタル化保存の必要性

【サムネイル用・表紙のデジタル化例】



昭和期の脚本は紙質も悪く劣化が激しく、黄ばみ、酸化、カビ跡も多い。ガリ版印刷のためインクの退化の危険もある。

脚本の中には、企画意図の記載のほか主題歌の歌詞が記載されているものもある。

一方、キャストやスタッフの記載は少なく調査が必要となる。

絵コンテや直しの書き込みがある脚本も多い。

② 脚本家の証言・著作権典拠の必要性・緊急性

アニメ史の継承のため、テレビアニメ草創期の脚本家やスタッフからの証言は大変重要である。作家の高齢化に伴い、貴重な証言録取、公開は喫緊の課題である。

また脚本家は多くの筆名を持ち全てを把握できていない場合もある。著作権者の把握は作品の二次利用にも有益であり、著作権の典拠資料としての意味も有する。



※ペンネーム例

脚本家・五武冬史氏（ペンネーム）

本名・鈴木良武氏の名前でも多くの作品を執筆している。

3. アニメ脚本データベース構築・発信準備事業——アニメ脚本データベース構築の必要性・緊急性（非常時の文化政策の有用性）

アニメに関する関心は高くデータベース化、国際発信の需要が高まっている。

しかしアニメ動画については、映像、原作マンガとの関係、声優、音楽など権利が複雑に絡んでおりデータベース上での公開が難しい。一方、アニメ脚本については、原作者・脚本家の了承によりデータベース公開が比較的安易である。あらすじを作成して加えることで、新たな著作物として権利関係もクリアできる。

データベースの公開は、著作権専門事例を多く手掛ける弁護士・福井健策氏の監修を受けて行っている。

令和1(2019)年10月の台風による川崎市市民ミュージアムの被害のほか、新型コロナウイルス禍のような非常事態においても、資料のデジタル保存およびオンライン利用による文化発信は有用性が高いと考えている。

本事業の「アニメ脚本と脚本家のデータベース」では、収集した資料の書誌データを Web 公開している。データベース掲載件数 8,579 件（複本除外）。英語版も公開している。日本語と英語の切り替えは、サイトの右上の「日本語」「English」の選択ボタンで簡単に表示できる。Wikipedia を自動的に表示する機能をつけている。

【詳細ページ/日本語】

アニメ脚本と脚本家のデータベース

検索するキーワードを入力

検索結果を絞り込む

トップへ戻る

サイボーグ009
太平洋の仁義

作者	辻真佐
原作	宮城王
原案	石川昌雄
放送日	[1968/7/21]
放送回	16
演出/監督	石川昌雄
かな	サイボーグ009
ローマ字	SAIBÔGU009
分類	特撮
メディア	テレビ
ジャンル	アニメ
収録先	映像保存中

あらすじ

『サイボーグ009』 青芝海軍軍医、石ノ森章太郎が1960年代に『少年サンデー』に連載を始めた、人気を博し、その後、東映動画によって映画版(モノクロ)として制作されたのが原典にせよ。物語は不良少年、山村ジョーが少年院から脱走した時、世界征服を企てる『ブラック・ゴースト団』によって捕らえられ、サイボーグとして改造される。『ブラック・ゴースト団』が改造したサイボーグは全員『00ナンバー』で呼ばれ、ジョーを含めて全員で9名。都市人権もバラバラに運用され、それぞれに異なる能力を与えられる。彼らが改造された目的が世界征服と聞かされたことで、自分たちが犠牲として殺される事に怒りを覚え、ギルモア博士を筆頭に『ブラック・ゴースト団』から逃げ出し、世界征服を止めようとする。『00ナンバー』のサイボーグ戦士は、自分たちが犠牲になった、人間なのかという疑問を抱えながら、『ブラック・ゴースト団』と戦いを続けるストーリーが本書の骨幹を成す。その後はテレビシリーズ化され、リメイク版も数多く作られる。物語の決着を得た後、原作者である石ノ森章太郎が亡くなり、現在も未完の大作として、各時代に合わせた方法で続編化されたリメイク版が数多く作られ、今後も新しい形でこの作品は世に世の世に伝承されていくことになる。

Wikipedia

サイボーグ009

『サイボーグ009』（サイボーグゼロゼロナイン）は、石ノ森章太郎による日本のSF漫画。

Wikipedia

サイボーグ009 (漫画) - Wikipedia

【詳細ページ/英語】

Anime-Screenplay and screenwriter database

Input search words...

enable synonym

SAIBÔGU009

Writer	TSUBASA Masaki
On Air date	[1968/7/21]
Broadcasting times	16
Reading	
Classification	Script
Media	TV
Genre	Animation
Transfer destination	Stored in warehouse

Synopsis

Saibôgu 009 (Cyborg 009) A remarkably talented cartoonist, Shotaro Ishinomori, started to publish the series in Shonen Sunday in the 1960s, and gained popularity. Later, a movie version (monochrome) produced by Tei Doga was cinematicized. The story starts when Jo Shima escapes from a juvenile detention center, and is converted into a cyborg after being caught by the Black Ghost Group which conspires to dominate the world. All cyborgs converted by the Black Ghost Group are called "Number 90", and there are nine of them including Jo; they are selected from various countries and races and are individually give different abilities. Since knowing they have been converted into cyborgs for the purpose of dominating the world they feel resistant to being treated as weapons, so they run away from the Black Ghost Group with Dr. Gilmore as a leader, and decide to stop their domination of the world. The story about cyborg warriors numbered 00 continuing to fight with the Black Ghost Group while anguishing over whether they are machines or humans appealed to young people and was later serialized for TV, and many remakes have been made. Before concluding the story the original author Shotaro Ishinomori died, so the story is still on serialized or novelized as an incomplete masterpiece in a way that has each era. It has been repeatedly produced by various media to the present date. This work will always end surely be remade at turning points in the world in a new form in the future.

*The information in [] is reference information by our group's own survey, and it is not what is described in the original of the bibliography.
*Regarding movies and plays, the description of the broadcast date column is "Publication Date" rather

4. 活用・発信の連携体制による社会的効用

①Japan Content Catalog (JACC®) との連携 / ジャパンサーチへの参加

書誌データは、映像産業振興機構（VIPO）が運営する JACC サーチと連携し、国際発信を行っている。また、JACC サーチを通じ、ジャパンサーチにも書誌データの提供公開を開始。様々な分野を横断検索することで、需要の高いアニメ資料情報の海外発信が可能となる。

②教育活用・社会活用

・子どもの創作活動を目的とした教育活用

例：「ワンミニット・ムービー」は iPad を使って、写真などをパラパラ動画編集し、1 分間の映像をつくるワークショップ。 <https://1min.work/>



- ・中高年向けの「回想法」にアニメ脚本を活用する企画を検討
- ・放送ライブラリー（横浜）の主催によるミニ展示

<https://www.bpcj.or.jp/>

放送ライブラリー内の展示スペースに、テーマを決め 3 か月ごとに二十数冊の脚本を展示。
展示作品の説明文を冊子にして配布している。

【アニメ脚本の展示例】

「懐かしのテレビアニメ」（2020 年 1 月～6 月 ※コロナ禍のため途中休館期間を含む）



【特撮脚本の展示例】

「特撮ヒーロー 光の国から永遠に・・・！」（2022 年 1 月～3 月）



【事業の流れ】

『アニメ脚本・脚本家データベース』概要図

